

倉敷絹織株式會社

本社 倉敷市

資本金 五千萬圓

拂込 三千萬圓

創立 大正十五年六月

沿革

昭和九年頃より、ステールブル・フアイバーに進出。倉敷紡績が、操短鍾を利用して、早くよりス・フ紡績を目論んだのに對應して、當社もス・フの生産に乗出したものである。

現在能力

現在のス・フ生産能力は、新居濱工場の日産十噸、西條工場の十五噸であるが、更に、倉敷工場ス・フ日産十噸設が、今年下期中に、竣功し、西條工場の同十噸増設も下期中に竣功する筈であるから、合計四十五噸の生産設備となる。

更に、當社の朝鮮進出計畫を見るに、ス・フ日産十噸を豫定されて居るから、これが完成の暁は、總生産能力六十五噸となる筈である。

製品

製品は市販しない。専ら倉敷紡績の早島工場及び、倉敷工場で、紡績して、ス・フ糸として「旭光」と言ふ商標で一部を市販し、他は之をス・フ織物製造に充ててゐる。今當會社の經營陣を見るに、左の如くである。

取締役社長	大原 孫三郎	柿原 得一
副社長	神社 柳吉	三村 起一
常務取締役	高橋 雄吉	大原 五一
取締役	原 澄治	大屋 敦
"	福島 郁三	中村 經一郎
"	吉井 仲助	大森 實

大株主

倉敷紡績	一七五、五〇三株	住友化學工業	一二、八〇〇株
大原各資	一一〇、四一九	第一徵兵	一一、二一四
住友本社	二八、八〇〇	中國銀行	一〇、四〇〇
住友鑛業	二七、〇〇〇	原 澄治	一〇、一〇四
大株代行	一六、七七〇	住友吉右衛門	一〇、〇〇〇
主なる製造會社			一八七

福島人絹株式會社

本社 大阪市北區玉江町二〇
 資本金 千四百萬圓
 拂込 九百八拾萬圓
 設立 昭和八年三月

沿革

當社は、昭和十一年に、やつと日産三噸の生産を行つた。十二年に入つて、五噸増設、同年上期末には、合計八噸設備となつたが、其の後、増設を行つて、現在では、二十八噸がほとんど完成して居る。

製品

當社の製品は、全く市販せず、すべて、親會社福島紡績に納め、飾磨、笠岡の兩工場で絲にして居る。このス・フ絲が「白福」と言ふ商標の下に、市販されて居る。織物製品は四十撚糸使ひのサーヂが主となつて居るが、交織も行つて居る。當社の經營陣左の如し。

社長	八代祐太郎	今橋	又吉
常務取締役	八代武次	監査役	山内貢
取締役	野村徳七	"	河盛勘次郎

錦華人絹株式會社

(錦華人絹は、去る七月二十六日、親會社錦華紡績に合併される事に決定した。)
 本社 廣島宇品町
 資本金 千五百萬圓
 拂込 千二百萬圓
 設立 昭和八年二月

沿革

當社が、本格的ス・フ工業へ進出したのは、昭和十一年からであるが、其の後も、餘り活躍を見せなかつた。合併前、現在事業規模は、ス・フ日産二十噸である。勿論、今回の親會社への合併で、當社自體は解消するが、引續き錦華紡績として、ス・フから、紡糸織物への一貫作業を行ふであらう。

主なる製造會社

本年上期末現在の経営陣及び、大株主は左の如し、

取締役社長	加藤 正人	竹村清次郎
専務取締役	藤岡 郊二	監査役
取締役	酒井 宗吉	杉道 助
"	野瀬 清嗣	北川 大藏
"	"	西野 幸作

大株主

錦華紡績	六六、六七〇株	千代田生命	四、〇〇〇株
野瀬清嗣	四二、〇〇〇	竹村清次郎	三、〇〇〇
北川同族	一六、八〇〇	武田銳太郎	二、五〇〇
竹村棉業	一〇、〇〇〇	藤岡 郊二	二、五〇〇
田附政治郎	四、六〇〇		

紡績會社兼營

大日本紡績株式會社

本社 大阪市東區安土町

資本金 一億一千萬圓

拂込 六千六百五十萬圓

設立 明治二十二年六月

沿革

何しろ、老大な資本と、優秀な技術、及び紡績事業の経験とが物を言ふ譯で、現在では、専ら、西大垣工場で専門にス・フの生産を行つて居る。従來の能力は、日産七噸半であつたが、本年上期中には、増設十五噸を完成し、公稱二十二噸半實力三十噸となつた。尤も、當社の大きな事業規模から見れば、この程度では、大したことはあるまいが、この設備能力が運轉して、その効果を示すのも、近いことである。

主なる製造會社

製品

西大垣工場で生産されたス・フは、専ら垂井工場、ス・フ糸及び織物とされて居るが、約三分の二が糸として市販され、三分の一が織物とされて居る。ス・フ糸の商標は「レヨネット」と言ひ、織物としては、新興モスのみで、商標は「レヨネットクス」と言ふ。レヨネットの番手は、十四、十六、二十と言ふ様な太番手から、三十、四十の單糸、四十の双糸、細糸では五十の單及び双糸と非常に種類が多い。就中、二十番手と四十番手あたりに、主として注力して居る。尙、目下建設中の京城加工工場も、來年春から、操業を開始するが、こゝで、人絹と共に、ス・フ布の加工が行はれることになつて居る。

當社の經營陣及び大株主は左の如くである。

取締役會長	菊池 恭三	本 咲利之助
取締役社長	小 寺 源 吾	黒 田 高 三 郎
常務取締役	今 村 奇 男	松 田 元
"	倉 田 敬 三	常任監査役
"	田 代 重 三	監 査 役
"	大 島 茂	伊 藤 萬 助
		岩 田 宗 次 郎

取 締 役	三 村 和 義	辰 馬 悅 藏
	松 村 諦 成	竹 村 清 次 郎

大 株 主	帝 國 生 命	四 五、二〇〇 株	當 社 修 齊 會	三〇、〇〇〇 株
	廣 海 二 三 郎	三 二、〇〇〇	菊 池 恭 三	二 九、〇〇〇
	田 代 重 合 資	三〇、〇〇〇	日 本 生 命	二 六、八 三 七

東洋紡績株式會社

本 社 大 阪 市 北 區 堂 島 濱 通 里 二
資 本 金 七 千 二 百 七 十 三 萬 五 千 圓 (拂 込 濟)
設 立 大 正 三 年 六 月

沿革

當社のス・フ研究も、來歴は頗る古い。昭和レヨン合併以前、既に、昭和レヨンに於て、その研究は進められて居たのである。昭和八、九年頃から他會社が、ス・フ生産に乗出したにも
主なる製造會社

不拘、當社は、まだ本格的に、之を生産せぬ旨を發表したりして居たのであるが、昭和十一年に入つて、俄然、従来の試験的生産日産一乃至二噸を急擴張し、先づ堅田、及び敦賀の人絹工場にその設備を進め、大體は人絹設備に於て、操短のために過剰する原液を利用するものであつたが特に原液設備をも増設し、兩工場で日産二十噸の設備を完了した。

更に、當社は、山口縣岩國に、ス・フ専門の工場の建設を進め、第一期工事は、昭和十二年初に完成、同五月から日産二十噸を以て操業を開始するに至つた。

十三年に入つて、ますます、當社の活動は積極的となり、四日市、伏見の諸工場に於ても、設備の充實を行ひ、純ス・フ糸の生産に最も力を注ぐに至つた。

最近では、ス・フ五十噸の生産設備が完成し、同業者中日東紡と並んで、大量の生産を示しつつある。當社は、之に止まらず、ス・フ八十噸擴張を計畫して居るが、未だ之は、着手に至つては居ない。

原料パルプに就ても、愛知縣犬山に七萬坪の土地を買収して、第一期日産十噸、第二期廿噸の桑條パルプの工場建設に乘出し、目下工事は、進捗中である。外にも、硫酸、苛性曹達等の化學薬品の自給にも乗出す筈である。

當社の經營陣及び大株主は、左の如し。

取締役會長	庄司乙吉	澤重保
專務取締役	伊藤傳七	川口正雄
"	種田健藏	"
"	關桂三	監査役
取締役	谷口豊三郎	齋藤恒一
"	中山秀一	山邊清亮
"	土屋喜太郎	神野金之助
"	作川鐸太郎	九鬼紋七
大株主		
三重伊藤合名會社	一九、六四四株	後藤幸三
日本生命保險株式會社	一八、九八五	第一生命保險相互
伊藤傳七	一七、七〇〇	谷口豊三郎
帝國生命株式會社	一五、一〇〇	城崎義太郎
豐島半七	一三、六七〇	野村生命
瀬尾初兵衛	一三、二三〇	

鐘ヶ淵紡績株式會社

本社 東京市向島區隅田町二
資本金 六千萬圓（拂込済）

（今般、倍額増資認可、別に、六千萬圓の別會社設立）
設立 明治十九年十一月

沿革

當社は、防府、高砂、淀川の三工場でス・フの生産を行つて居るが、本格的に生産の開始されたのは、比較的新しく、防府工場は、昭和十一年二月、高砂工場は、同三月からである。淀川工場は、繊維工業の試験工場である。現在は、日産能力二十吨であるが、當社は、ス・フ工業に對して、頗る積極的であり、滿洲に於ける葦パルプ製造と共に、近く大擴張に乘出すものと言はれて居る。

當社經營陣及び大株主は、左の如し。

社長	津田信吾	井上潔
常務取締役	成戸秀吉	賀集和三郎

取締役	三宅郷太	監査役	野崎廣太
"	名取和作	"	室田義文
"	中村庸	"	中上川三郎治
"	丸山幸藏	"	染谷寛治
"	平賀恒次郎		

大株主

第一相互	一二五、〇〇〇株	後宮信太郎	二九、三〇〇株
三井合名	六四、一九六	大株代行	二〇、六六〇
東株代行	五一、七四〇	神戸取引證券	一五、五五〇
康徳興業	四一、五〇〇	帝國生命	一五、一〇〇

日東紡績株式會社

本社 福島市外杉妻村大字郷ノ野目
資本金 二千九百六十萬圓
拂込資本金 二千二百十萬圓

主なる製造會社

設立 大正十二年四月

沿革

大正十二年四月、絹糸工業を以て、先づ設立された。その頃から、當社は、ステープル・ファイバーに眼をつけ、非常な努力を以て、その研究を行つて、事業化を計畫しつゝあつた。設立當初は、養蠶製紙の副産物を原料とする利用厚生を圖るのが、主たる目的で、原料の改善、機械の改良、経費の節減、技術の研究と、その經營を合理化し、絹紡事業としても、鐘紡、大日本紡、富士紡に次いで、我國第四位の生産設備を有するに至つたものである。

一方、ス・フ工業の研究は、着々と進捗し、その間、幾多の犠牲を拂ひつゝも、我國纖維工業界の自給自足の建前から、その工業化を圖つたのである。

昭和八年一月、かくて、絹糸紡織の一貫作業を完成して、社礎の安定した當社は、福島工場にス・フ一廳を創設した。このス・フ工場創設に際しては、外國特許依存を排して、自ら工夫創案し、二十個に及ぶ特許を獲得して、ス・フ工業を確立したのである。

増産へ

かくて、昭和十年二月には、硫酸工場を新設、十一年には、二硫化炭素の工場を新設して、藥品の自給を圖り、同十一年四月、四倍増資を斷行し、以て、更に生産力の擴充を行はんとし、六月には、郡山市外に、ス・フ工場を新設し、また兵庫縣の伊丹に織布精練工場を新設する事となつた。

越えて、十二年五月、引續く事業の好調と、工場増設其の他の生産擴張のため、資本金を一千萬圓より二千五百萬圓に増資し、更に、九月には、名古屋紡績を合併した。

事業規模

而して、左の如き生産規模を、現在有するに至り、製品は、その優秀性が海外にまで響いて居る。

敷地	二五六、一五五坪
建物坪數	九八、五五五坪
ステープル・ファイバー	七〇廳
硫酸	日産 一二五廳 (五五度換算)
二硫化炭素	日産 二五廳
精紡機錘數	絹紡式 七五、六六八錘
	綿紡式 一七七、四六四錘
撚糸機錘數	四〇、八八四錘
織機臺數	一、三四六臺

主なる製造會社

ステープル・ファイバー

絹布織機臺數

織物精練設備

織物染色設備

二六一臺

一回 二八、〇〇〇反(着尺)

五、〇〇〇反(〃)

二〇〇

右の如くである。

又、當社工場及び生産内容は左の如くである。

福島工場(福島市外敗妻村)

ス・フ、硫酸、二硫化曹達、芒硝、紡績、織布。

郡山工場(福島縣郡山市)

絹紡糸、綿紡糸。

郡山市第二工場

人織糸、綿紡糸。

郡山第三工場

同

富久山工場(福島縣安積郡富久山町)

ス・フ及び硫酸。

新潟工場(新潟市沼垂山下)

綿紡糸。

名古屋工場(名古屋市中區八熊町)

綿紡糸。

金澤工場(金澤市字諸江町)

生糸、絹布。

伊丹工場(兵庫縣川邊郡神津村)

織物、精練、染色、加工。

他に、新所原工場、福島第二工場の紡績工場が新設される。

尙、當社は、鬼首鑛業を以て、硫黄の増産を行ひ、以て硫酸、二硫化炭素の自給を圖り、更に、投資會社日東毛絲紡績株式會社も、機械据付を終り、混紡毛絲生産を開始して居る。當社では、この外、グラス・ファイバー及び大豆カゼイン羊毛の生産を行はんとしてゐる。

製品

尙、當社製品の商標は、「パラマフェル」ス・フ絲は「パラマウント」、ス・フ織物は「パラマツクス」として、海外にまでも、著名であるが、更に、混用綿絲「軍神票」も、最近市販され、純

主なる製造會社

二〇一

綿糸「龍鼓票」と共に、好評を得て居る。

製品の過半は、自家消化し、一部は内海紡績に供給し、残りを市場に出して居る。ファイバー糸の番手は、十番手、二十番手、三十番手、四十番手、双絲、六十番双絲、八十番手双絲等である。

当社経営陣及び大株主は左の如し。

取締役社長	片倉三平	片倉武雄
常務取締役	阿部利七郎	林清夫
"	白井千尋	片倉直人
"	内藤圓治	片倉方平
"	下出重喜	今井五六
取締役	上川勘次郎	片倉方平
"	田中彌一	監査役佐藤傳吉
"	島村芳三	廣川憲
"	鈴木周三郎	相談役片倉兼太郎

大株主

片倉製錬	一四一、一〇〇株	山葉商店	一一、〇四一株
恒心會	一八、一九五	日本生命	七、八〇〇
帝國生命	一三、四四〇	千代田生命	七、二〇〇
十六銀行	一一、八五〇	片倉生命	七、一〇〇

其の他の會社

日本毛織株式會社

本社 神戸市明石町

資本金 五千萬圓

拂込 三千五百萬圓

設立 明治二十九年十二月

當社の現在、ス・フ生産高は、僅か一吨乃至二吨であるが、昭和九年、ス・フと羊毛混紡糸「ラデオヤーン」を市場に送つて居る。經營陣及び大株主左の如し。

取締役會長	川西清兵衛	八馬兼介
專務取締役	川西清司	財田秀一
常務取締役	小倉喜一	監査役松本鐵次郎

櫻井靖

取締役 田村市郎

小會根貞松

大株主

小會根合資	五三、〇〇〇株	澤田清兵衛	一九、〇〇〇株
川西清司	三〇、六二〇	有馬市藏	一八、一九五
川西龍三	二六、七四〇	川西清兵衛	一五、〇九二
西川清	一七、一七〇	廣海二三郎	一五、〇〇〇

紡機製造株式會社

本社 神戸市葺合區脇濱町三

資本金 八百萬圓

拂込 五百五十萬圓

設立 大正十四年五月

沿革

ステープル・ファイバー製造會社としては、變り種である。元來が、機械製作業で、特に、人主なる製造會社

ステープル・ファイバー
 当社經營及び大株主左の如し。

取締役社長 松尾忠二郎
 常務取締役 中根 一二
 取締役 土居 樟 巳

大株主
 中根 一二 八、〇二〇株
 田宮喜右衛門 六、四五〇
 松尾忠二郎 六、〇〇〇
 土居 樟 巳 五、八四〇

監査役 依岡 榮 二
 大川 義 雄
 若林 乙 吉
 依岡 榮 二 五、二四〇株
 大川 鐵 雄 四、五〇〇
 石塚 拓 治 四、〇〇〇
 藤田 廣 馬 二、四六〇

ステープル・ファイバー (終)

昭和十三年九月十五日 第一刷印刷
 昭和十三年九月二十日 第一刷發行

新興産業の基礎知識(3)
 ステープル・ファイバー
 [定價] 金 八拾五錢



著 作 者 景氣研究所 代 表 勝 田 貞 次
 發 行 者 東京市日本橋區吳服橋二ノ五 神 田 龍 一
 印 刷 者 東京市麹町區九段一丁目四番地 海 野 勇 助
 印 刷 所 東京市麹町區九段一丁目四番地 文 雅 堂 印 刷 所

發 行 所 東京市日本橋區吳服橋二ノ五 春 秋 社
 發 賣 所 東京市日本橋區吳服橋二ノ五 振替(東京)二四八六一
 株式會社 松 柏 館
 振替東京三九七一六・電話日本橋二六二四

第五卷	安田コンツェルン讀本	小汀利得著
第六卷	日産コンツェルン讀本	和田日出吉著
第七卷	満鐵コンツェルン讀本	小島精一著
第八卷	證券財閥 <small>(野村・小池・山一)</small> 讀本	栗林正修著
第九卷	<small>淺野・澁澤 大川・古河</small> コンツェルン讀本	西野入愛一著
第十卷	大倉・根津コンツェルン讀本	勝田貞次著
第十一卷	新興コンツェルン讀本 <small>(日室・森・日曹・理研)</small>	三宅晴輝著
第十二卷	財界人物讀本	鈴木茂三郎著
第十三卷	電力コンツェルン讀本	三宅晴輝著
第十四卷	生保コンツェルン讀本	高垣五一著
第十五卷	製糖コンツェルン讀本	小野文英著

日本コンツェルン全書

(全十九卷)

全卷完成記念・分冊分賣

時の問題を最も鮮かに擲んだ時代の書として、我が日本コンツェルン全書は、嵐のやうな歡迎裡に全十九冊の完成を見た。我が社は近く自由な分冊分賣の必要に迫られてゐるが、それには從來の一冊一圓六十五錢を一圓八十錢に値上げするの止むを得ざる事情の下にある。その理由は改めて説明せずとも既に御諒知の事と考へる。全卷完成記念奉仕の意味に於て、全國各書店に本全書を相當潤澤に配本し、この値上に先立つて、全卷完成記念奉仕の御自由にならせて大々的に本書の普及に努めることとした。切に諸賢の愛讀を待つ。

全十九卷書名並びに執筆者名

第一卷	日本財閥論	高橋龜吉共著
第二卷	三井コンツェルン讀本	和田日出吉著
第三卷	三菱コンツェルン讀本	岩井良太郎著
第四卷	住友コンツェルン讀本	西野喜與作著

外57
冊之

第十六卷

紡績コンツェルン讀本

和田日出吉著

第十七卷

川西・大原
伊藤・片倉
コンツェルン讀本

木村晴輝共著

第十八卷

産業組合讀本

賀川勉豊彦共著

第十九卷

川崎・鴻池コンツェルン讀本

勝田貞次著

附 各財閥の化學工業部門研究

〔申込略規〕

一、配本

全卷完成・分冊分賣

全國各書店に全卷配本陳列して有りますが、萬一品切の節は直接本社へ願ひます。尙部數に限りがありますので、品切の節は何卒御容赦下さい。

定價も十月廿一日以降壹圓八十錢に改正致します。

一、體裁

各冊菊判上製カバー付平均四百頁・寫眞凸版多數挿入、

一、定價

各冊一圓六十五錢

市内六錢、地方十四錢、殖民地十八錢。

東京・日本橋・吳服橋

春 秋 社

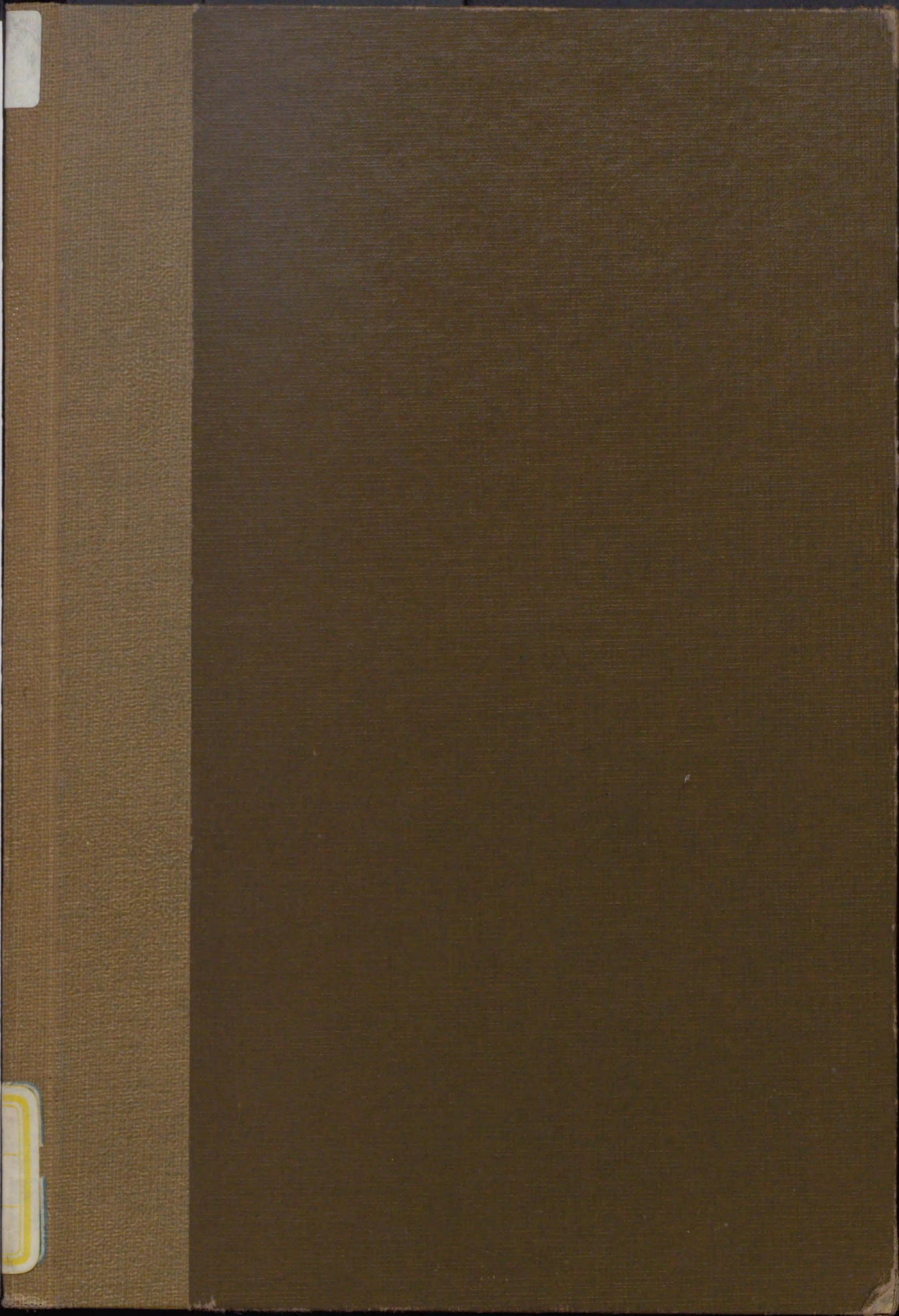
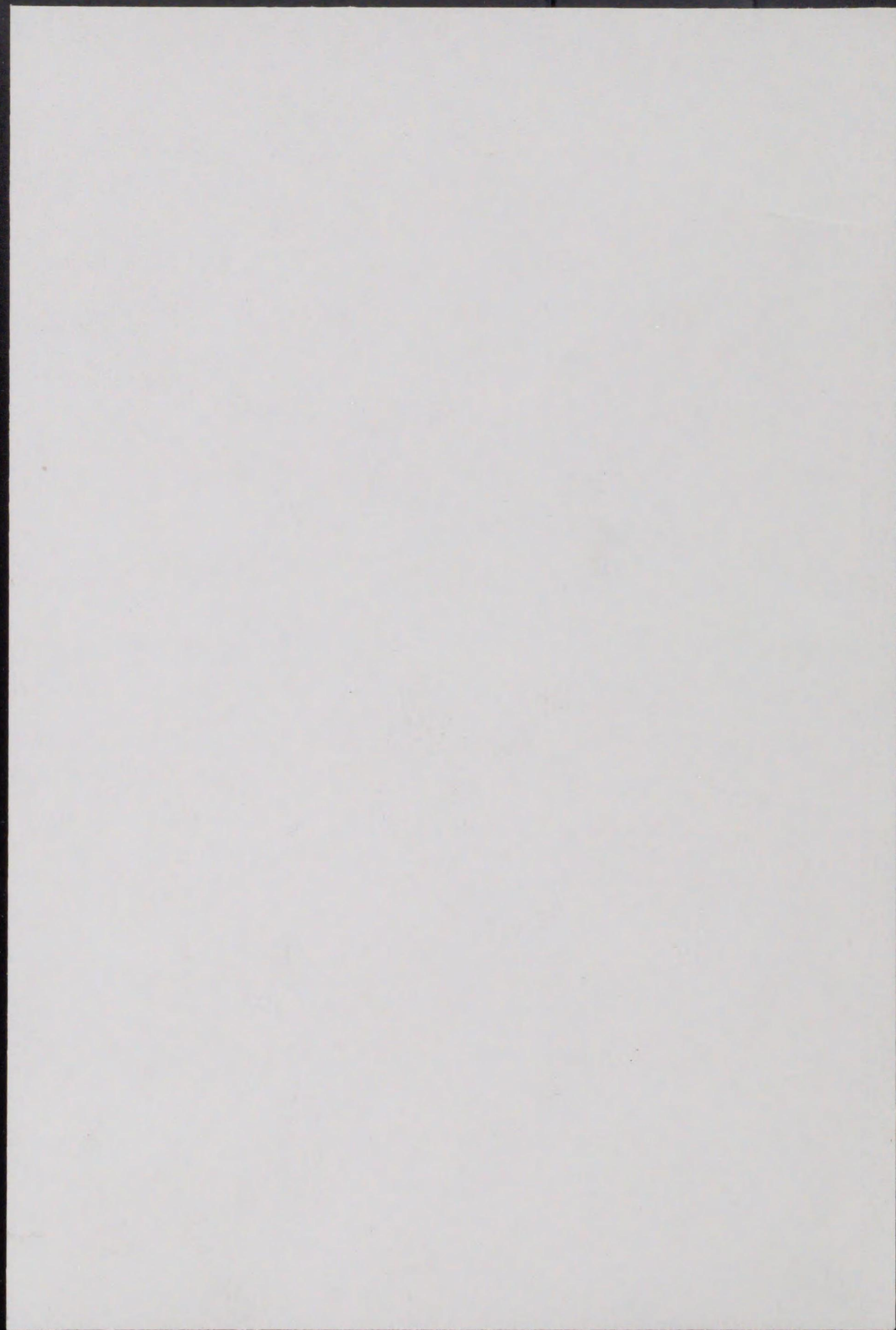
振替電話 東京日本橋 二四二六 一四二四

讀者奉仕・分冊分賣

奉仕期間十月二十日迄

★來る十月廿一日以降一冊定價一圓八十錢★

~~751~~
~~140~~ 586.6
~~MEZ~~

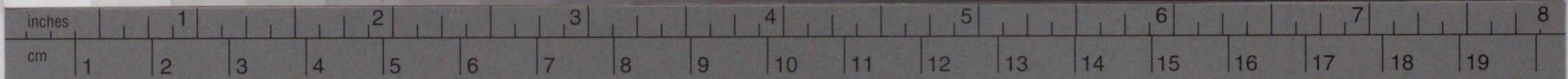


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

